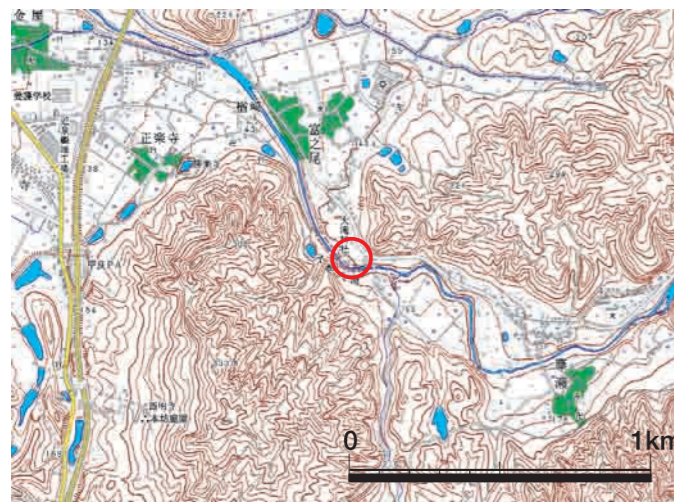


周辺の  
みどころ

昭和7年の「犬上川騒動」を契機として、滋賀県は当地の水利問題の抜本的解決に乗り出した。すなわち、翌年に金屋頭首工(一ノ井・二ノ井の合同井堰)を設置するとともに、翌々年から犬上川ダム建設に着手した。現在、金屋頭首工から導水される一ノ井幹線送水路沿いの犬上川左岸では、親水護岸・遊歩道が整備され、桜の名所として親しまれる。遊歩道沿いに建つ「一ノ井堰之碑」が、かつての激しい水争いを物語る。



一ノ井幹線送水路沿い(犬上川左岸)の遊歩道



【アクセス】

- JR琵琶湖線河瀬駅からバスで滝の宮下車すぐ。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】  
(関連文献/関連施設)

- 大瀧神社 Tel. 0749-49-0004
- 多賀町『多賀町史』

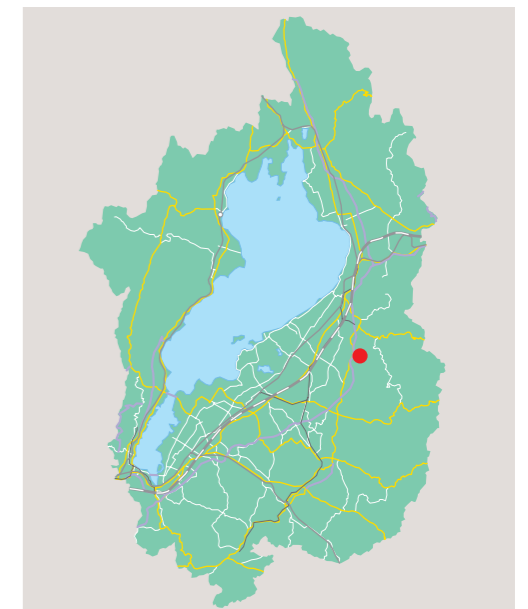
# 大瀧神社

犬上郡多賀町富之尾



大蛇が淵

奇岩怪岩が重畳たるなかを、犬上川が水しぶきをあげながら轟轟と流れる。落差約10mに及ぶこの急流は「大蛇が淵」と呼ばれる景勝地で、ここに臨んで鎮座する大瀧神社は江戸時代には「瀧宮」と称した。犬上川は下流27ヵ村以上の田用水をまかなったから、大瀧神社はその水源をつかさどり、五穀豊穰をもたらす神として大いに信仰を集めたことが知られる。境内社の犬上神社が、当地古代の有力豪族犬上君の祖稲依別王を祭神とし、犬上郡名起源譚を伝えるのも、おそらくこうしたことと深くかかわるのだろう。







大瀧神社本殿(向拝詳細)



大瀧神社本殿(正側面全景)

## 大瀧神社

所在地 犬上郡多賀町富之尾

### 犬上川騒動

昭和7年(1932)の夏は大早魃<sup>かんぼつ</sup>に見舞われた。このとき琵琶湖の東方にそびえる青龍山の南麓では、殺気立つ総勢400余名が竹槍を振りかざして、一ノ井堰(甲良町金屋)付近の犬上川を挟んで対峙していた。そして、暫時はじまった石合戦によってついに惨状を見るに至ったため、出動した230名の警官隊によって鎮圧された。当時の新聞はこれを「犬上川騒動」として報道している。

### 命の水の源

当該箇所の犬上川には一ノ井から四ノ井の井堰が設けられ、歴史的に見ると、こうした「犬上川騒動」と同然の争論が頻発していたことが知られる。当該域の人々にとっては犬上川はまさに「命の水の源」であり、明治18年(1885)の記録によると、一ノ井だけで17ヵ村14,006石余を灌漑し、2,149戸10,008人を養っていた。

### 水源の神さま

大瀧神社は一ノ井堰から犬上川の上流へ1km余に所在する。祭神は「高龍神」「閻龍神」。「高」は山、「閻」は谷、「龍」は水の神(竜神)を指す。重畳たる奇岩怪岩の狭間を轟轟とながれる「大蛇が淵」に神の姿を見た人々は、大瀧神社を尊崇してその恩恵に感謝し、また神の加護のあらんことを祈願した。こうして当社が犬上郡内でも有力な神社の一であったことは、現存する本殿(県指定有形文化財)が寛永15年(1627)に徳川家光の下知によって造営されたことによっても裏付けられる。当時、犬上郡総鎮守であった多賀大社の奥宮おくのみやに位置づけられたことから、その寛永度大造営の一環として整備された。

### 犬上郡名起源譚

享保19年(1734)成立の『近江輿地志略』巻之七五に、次のような伝説がみえる。  
むかし、この辺りに狩人が住み、犬を飼っ



大瀧神社参道



小石丸の首を鎮めた小祠



犬上神社



犬胸松

て狩りをしていた。ある時、大樹の下で休憩していると、犬が狩人に激しく吠えかかり、眠ろうとすると、ますます吠えて飛びかかり、衣服に噛みついて引っ張った。狩人は怒りに耐えきれず、剣を抜いて犬の首を切ってしまった。そうすると、犬の首は樹上に飛び上がって、大蛇の喉に噛みつき、大蛇といっしょに落ちて来て死んだ。狩人は驚いて、犬の忠死に深く感謝し、社を建て神として祀った。この犬の名を小石丸といい、上記の伝説か

ら犬神もしくは犬咬が転じて犬上の郡名がうまれたという。また、狩人を『古事記』にいう犬上君の祖稲依別王といい、大瀧神社境内社の犬上神社にこれを祀る。そして、その犬上川の対岸には小石丸の首を鎮めた小祠があり、犬上神社の元社とされる。さらに大瀧神社の参道入口にある犬胸松は、小石丸の胴体を葬った塚に植えられたとも、大蛇が稲依別王をねらった大樹であるとも伝える。